

森のお便り 4月号

発行・編集 「到津の森公園」森の仲間たち」14年4月1日発行 通巻134号

どうぶつ びつびつ はなして

よしぞわようこ 油彩画と版画展

4月6日(日)～6月15日(日)

厳しい自然のなかで生きる動物たちのけなげさとやさしさ。ふとした瞬間に見せてくれるユーモラスな表情やペーソスあふれるまなざし…。

動物たちがびつびつと何を話しているのかを想像しながら描かれた、やさしいタッチの作品たちをお楽しみください。

- 展示日時： 4月6日(日)～6月15日(日)
9:00～17:00
※5月3・4・5日は～19:00
※6月3・10日(火)は休園

- 場 所： 管理センター 2階ロビー
- 観 覧 料： 無 料 (入園料は必要)
- 展示内容： 油絵約25点、版画約20点、
植物画約10点、英字新聞に
掲載されたことわざ約20点

★森のおはなし探検隊★

4月のテーマは『到津の森の野鳥観察』

到津の森にやってくる野鳥のガイド付き観察会を行います。子どもから大人まで、多くの方の参加をお待ちしています。

開催日時： 4月20日(日) 10:00～

(終了時間は状況により変更することがあります。)

集合場所： 姿見の池 前

参加費： 無料(別途要入園料)・事前申込不要

☆アフリカ民話の読み聞かせと ティンガティンガアートのライスペインティング

4月29日(火・祝) 13:00～ 芝生広場にて

タンザニアの画家ムスカさんによる民話の読み聞かせと
ライスペインティングを行います！

《よしぞわようこ プロフィール》

青山学院大学在学中、交換留学生として一年を過ごした米国で英語絵本の翻訳を志す。卒業後、旅行で訪れたアジア諸国や、通訳の仕事でのベトナム滞在したアフリカ各地で昔話にふれ、再話を手がける。

「こどものとも」に『おおぐいひょうたん』(1999年1月号)、「こどものとも年中向き」に『サムリ まめを とりかえす』(2006年10月号)、文とイラストの仕事に「Animal Idioms & Sayings」(朝日ウイークリー、2009年4月～2011年3月隔週)などがある。

動物をテーマとした油彩画家、版画家としても活躍中。

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。
詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問い合わせ下さい。

森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093 - 651-1895 予803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>

森のなかま・ヤギのあかちゃん

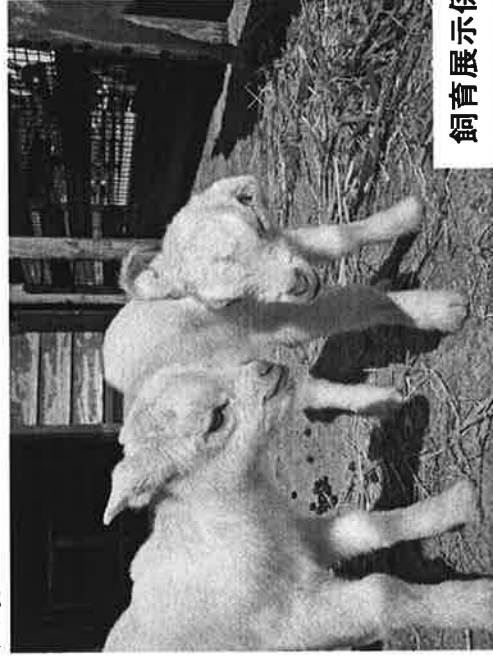
暖かい季節がやってきましたね。桜の花も一気に咲き始め、園内は緑でいっぱいです。そして、春のお便りといえば、動物のあかちゃん!! 今年の第1号はヤギでした☆ しかも、メスとオスの双子ちゃんです。おとうさんは宮崎フェニックスからやってきたシンノスケくん。おかあさんはヒナちゃん。初めての出産と子育てです。

出産がはじまったのは、3月9日の朝でした。その日は日曜日。お天気も良く、お客さんもたくさん来てくれるであろう日。そして、ふれあい班の班員が「ぶやいやいた言葉は、「やっぱりか」でした。そう、飼育員が忙しい日に限って、産まれちゃうんです!

ヒナちゃんやんは立ったり座ったり、鳴いたり叫んだり。小休止をしながら、屋過ぎにあかちゃんやんは産まれました。そのとき担当者の私はといえば、必死にキャベツを売ってしまいました…。

1頭目が産まれてすぐに、2頭目がでてきました。5分もすると自分で立ち上がり、お乳を吸い始め、ヒナちゃんもすっかりおかあさんの顔。安心して子育てを任せることができました。

オスのあかちゃんは、やんちゃで元気いっぱい。ぴよんぴよん跳ね回っています。メスのあかちゃんは、おっとりしていますが好奇心旺盛です。少しずつ人のことを好きになるよう練習するので、なかよし広場デビューできるよう温かく見守って下さいね。



飼育展示係 今田 文

花暦 卯月

厳しかった冬も去り、園内は春爛漫。花壇を彩る草花と共に、自主的住人の“雑草”たち、ムラサキケマン・オドリコソウ・トキワハゼ・ヒメズグサ等も精いっぱい日差しを浴び春を謳歌しています。

彼らはお互いの生存競争や気候等の環境の変化、人間の都合等に対応し、子孫を残すべく大いに栄えたり、片隅でひっそり花をつけて耐え忍んだり、、、栄枯盛衰を繰り返しているのです。特に外来の草花は切り開かれた土地等に繁ったかと思えば、数年のうちに姿を消してゆきます。

市内の我が家近くでもセイヨウヒキヨモギが日当たりのよい空き地にたくさん現れ、黄色の可愛い花をつけるのが見られましたが、今では川沿いに点々と現れるのみです。園内では再オープン後の整備工事に引き寄せられたのか、ベニバナボロギクやナガミヒナゲシが花をつけてしまいました。でも今年は通路の端々にナガミヒナゲシの新芽が出て復活してきたようです。さてここ数年散歩をしていて淋しいもの一つに、ありふれた路傍の草、ハハコグサに滅多に出会わない事。皆さんの周囲ではいかがでしょうか。

春の七草の一つ(オギヨウ)でつくど粘りが出るので、餅の中につきこんだそうですが、ほとんど風味はなくなったりヨモギにとつて替わられています。春を待つ寒風に耐え、ロゼット状に這う淡緑の葉は、ふわふわ綿毛に覆われ、つぼみの頭花(多数の花が固まって咲き一つに見える)も淡黄で、思わずこれらは柔らかそうに食べてみたいと、太古の人が考えたのもうなずけます。

“母子草”の名の由来も一つではなく、咳や利尿・打撲等の薬草として親しまれてきたハハコグサ、懐かしい思い出だけの草になってほしくない。

全体にハハコグサに似て、貧弱な印象が残念なチチコグサも近年はよく似た外来種のタチチコグサ・ウラジロチチコグサ・チチコグサ・モドキ等が繁殖し、園内でも彼らばかりになってしまいました。

※この木僕の木・私の木 ネームプレートをつけよう!

来園の記念に、園内にあなただけのネームプレート付けてみませんか?

日時 : 4月29日(祝日)13時~ プレートが無くなるまで

場所 : 里の生きもの館 レクチャールーム

参加費 : 無料(入園料は必要)

希望の方には、植物のミニガイドあり

文 : 花咲くおばさん